

令和3年度 第3回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び
協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会 会議概要

1	会議名	令和3年度 第3回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会（協働推進委員会）
2	日時	令和3年12月21日(火) 午前9時30分から午前11時30分
3	会場	安曇野市役所本庁舎 大会議室
4	出席者	磯野会長、細川副会長、佐々木委員、鷺澤委員、水原委員、大澤委員、吉田委員、山田委員、小澤委員、亀井委員、川崎委員、今泉委員、桜井委員、長澤委員、森岡委員 計15名
5	市側出席者	山田市民生活部長、地域づくり課 高橋課長、寺島主査、藤原主任、土屋会計年度任用職員
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和3年12月23日
協 議 事 項 等		
1	会議の概要	
1	開会	
2	あいさつ	
3	報告事項 (1) 本年度庁内で実施されている個別協働事業 (2) 協働推進委員会第1回学習会の概要	
4	協議事項 (1) 協働推進行動計画の推進に向けた取り組み	
5	その他 (1) 第4回委員会 ※次回は令和4年3月11日(金) 午前9時30分～ (2) 第2回学習会 ※次回は令和4年1月27日(木) 午前9時30分～	
6	閉会	
2	報告・協議事項概要	
3	報告事項 (1) 本年度庁内で実施されている個別協働事業	
	【事務局】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供のあった事業は24事業。昨年度は新型コロナを受けて中止した事業を除くと13事業だった。 ・新規事業は4件。うち3件が市民協働事業提案制度に基づく。 ・来年3月の第4回協働推進委員会では各団体の自己評価を報告するとともに、まだ把握しきれていない協働事業を収集して紹介したい。 ・来年度は、委員の方が実際に見に行ったり参加したりする際の参考にしていただくため、第1回目の委員会では本年度実施の個別協働事業を紹介する。 	

(2) 協働推進委員会第1回学習会の概要

- ・学習会の大きな目的は「令和6年度から始まる第3次協働推進行動計画策定に向けて議論すべき点を深めるため」としている。そのために第2次計画の課題も共有していきたい。
- ・初回は、計画や協働推進委員会に対して感じていることを出し合い、共有した。
- ・学習会は基本的に毎月開催するが、協働推進委員会を開く月は除く。今回は1月27日。

【会長】

- ・学習会は2グループに分かれて近い距離で話せて意見を出しやすかった。良かった。

【副会長】

- ・学習会に参加した委員からは楽しかったという声を聞いている。今後も続けていきたい。
- ・報告事項1に関連して、各課に対してどのような形で協働事業の事例を照会しているか聞きたい。個別に協働事業を拾い上げればもっと多くなる。
- ・職員が楽しみながら協働事業に携わらなければならないし、協働を理解していなければならない。職員自身が、携わった協働事業をどう評価するか難しい現状がある。協働を評価するための職員のマニュアルが必要ではないか。

【事務局】

- ・個別の協働事業は共催、実行委員会、事業協力（協定）に絞り、各部・課に照会した。
- ・協働事業を拾い出せばさらに多くあるという点は指摘の通り。
- ・協働事業があがってこないことについては、職員の理解が足りない点がある。職員向けに「協働のまちづくり職員マニュアル」を作っている。係長や新人職員などに研修会を開いてきたが、ここ1、2年は新人職員だけになっている。研修もしっかりやっていきたい。

【会長】

- ・一覧表に個別協働事業が載るか載らないかは、各担当課の判断ということか。

【事務局】

- ・その通り。協働事業はまだあるため、さらに増やせるよう努めたい。

【委員】

- ・学習会は今の実情がよくわかる内容だった。積み重ねていけば良い計画ができると考える。第3次というより新しい計画を作り替えていくように感じた。学習会の今後の進め方は、現状を踏まえてどうするかという観点で続けていってこれればうれしい。

【会長】

- ・学習会ではさまざまな角度の意見が出て良かった。

【委員】

- ・学習会はオンラインで参加した。現場が和やかで行きたかったが、オンラインで参加できたのはありがたかった。次回はできれば現地で参加したい。

【委員】

- ・協働事業をあげたらたくさんある。三郷公民館長から若返り講座を開きたいと聞き、ニーズをくみ取りながら昨年、事業を展開した。協働事業だったと考える。
- ・職員向けのマニュアルを作り込むことで行政職員が分かりやすくなる点は良いが、協働事業がたくさん出てくるとまとめる事務作業が多くなる。良い事業を協働推進委員会に報告し、5地域にどう広めていくか考えられれば良い。1事業ごと羅列するよりも効果的だ。

【委員】

- ・まちづくりは好事例を重ねていくことが大切。網羅的な一覧表は、数値的にいくつあるか確認できるメリットはあるが、好事例を収集・分析・検証すれば質的な状況が分かる。

【委員】

- ・何が協働なのか、協働推進委員会の中で大きな疑問が以前からあるような気がする。市社会福祉協議会の事業も協働で成り立っている面がある。
- ・一つ一つの協働事業の評価そのものよりも、取り組んでいることが協働だという投げ掛けを進めていくことが協働推進の肝だと考える。私たち委員は各協働事業に携わっていないため評価できない。好事例を発信していくことで協働の裾野が広がっていく。

【委員】

- ・協働自体が目的化してしまっている。協働したことによって何が達成されたのか、良い効果が生まれたか、モデルケースを通じて分かることが第一だ。モデルケースに対して、何らかの形で効果が客観的に分かるようなシステムや採点表を作り、次の活動につなげることが大切。学習会でそのたたき台を作り、協働推進委員会に上程できれば良い。

【会長】

- ・自身関わっていない協働事業は分からないため評価できない。

【委員】

- ・市における協働事業の全貌を明らかにするのであれば、例えば5年、10年ごとに全庁的に調査する必要がある。総ざらいすることであっても良い。
- ・成功事例をモデルケースにすることは良いが、一方で失敗事例も大切だ。成功事例ばかりだとハードルが上がってしまう。トライ・アンド・エラーの観点からも、失敗事例をたくさん積み重ねることも必要だと感じる。

【委員】

- ・現場の悩み事を課題として、行政や市民が互いに役割分担して解決していくことが協働の仕組み、流れだと考える。地域の困りごとに関心を高くして、「行政と力を合わせると良い」と考えることが大切だ。

【委員】

- ・優れた協働事業に対して「協働賞」というような形で認定することも良い案と考える。そうした好事例を10年間積み重ねることで、それが協働を進める上でのマニュアルになる。受賞した団体のモチベーションにもなる。

【副会長】

- ・表彰することでメディアに取り上げてもらえば協働の啓発にもなる。賛同したい。
- ・失敗に学ぶという観点からも評価する必要がある。事業の当事者よりも第三者の方が中長期的な評価を行うことができる場合もある。
- ・評価は、現場に始まり現場に還元して初めて意味がある。その視点で団体の運営や事業内容に助力しながら、団体が継続していけるような評価項目を考えることが大切だ。

【委員】

- ・報告事項の時間であり、協働はこういうものだという考え方は学習会の場を活用して話した方が良い。

【委員】

- ・協働というものが初めて分かった点で学習会に参加して良かった。学習会は委員を選任する前後にやっていただきたい。協働推進委員会はどうしても堅苦しくなってしまうが、学習会では気軽に話せる。

【委員】

- ・区長として、困ったときに互いに支え合えることが協働だと考えている。
- ・12月11日に市区長会設立15周年記念事業があり、今後の「区のあり方」として区長会の事務局体制をきちんと作ってほしいと提案した。市から、ひと月に少なくとも20通、年間だと200通以上の通知などが届き、市の郵便代もかかる。例えば、区長会の担当職員が5地域に配布し、区長会事務局が区長に配れば市は郵便代を節約できる。区長会が賃金を支払い区民に仕事として区長会の運営に携わってもらえば、市と区はもっと密接になり、コミュニケーションも図れる。区長会の事務局が主体的になれば、市とさらに連携できて助け合える。それが協働ではないか。今後、区長会の事務局体制について検討してほしい。

【委員】

- ・学習会には参加できなかったが、内容を分かりやすくまとめていただきありがたい。まずは学習会を開いてみたという段階だと思うが、目的がないと話が発散してしまう。

【委員】

- ・学習会に参加できなくて残念だったが、何が話し合われたか分かった。小さな意見を吸い上げていただける会があることは良い。次回は参加したい。
- ・千葉県浦安市にずっと住んでいたが、浦安市は「防災浦安」というキャッチフレーズで防災への意識が高い。防災を通じて地域がまとまり、協力する。防災や健康など身近な地域のテーマがあると、気軽に集まって話し合うことができ、縦と横のつながりが生まれる。

4 協議事項

(1) 協働推進行動計画の推進に向けた取り組み

- ・前回9月の委員会委員からいただいた意見に対して、「新しく始めた事項」「始める予定の事項」「検討中の事項」に3分類し、5項目の取り組み状況を説明する。より効果的に推進していく方法、改善策などをお聞きしたい。

【委員】

- ・新しく始めた事項のメディアへの一斉リリースは良い活動だ。引き続きお願いしたい。
- ・まちづくり人財バンクは人財を公にするのか、それとも地域づくり課に連絡が来たときに紹介するのか、どちらを想定しているか。

【事務局】

- ・現在、さまざまな分野でまちづくりに取り組む市民を「まちづくりの人財」として取材し、人柄が伝わるような記事にしてサポートセンターホームページで紹介している。担当の考えとしては、その人の人柄が分かった方が解決を望む団体とつながりやすいと考えており、バンクでも可能な限り情報を公開していきたいと考えている。

【委員】

- ・富士見町のテレワーク・コワーキングスペース「森のオフィス」では、入り口に顔写真とその人ができることなどを書いた自己紹介カードが20、30枚貼ってある。森のオフィスはビ

ジネス交流施設だが、協働のつながりとしても有効な手段であると感じた。

【委員】

- ・安曇野市に移住して市を知るため、協働コーディネーター養成講座と地域リーダー育成講座を受講した。ただ、受講以降、活動や交流ができていない。高校生などもっと若い人を対象に、地域を知って活動できる仕組みがあれば良い。コーディネーターといった難しい言葉も使わない方が良い。

【委員】

- ・新しく始めたことなど、良い取り組みは進めていってほしい。
- ・提案として、市民活動サポートセンターのホームページに市民自身が自身の活動を報告・投稿できるような仕組みを考えてほしい。まちづくり人財バンクというよりも、サポートセンターを助けてほしいといった形で事業提案すれば良い。

【事務局】

- ・提案いただいた内容は整理したい。意見として承る。
- ・地域リーダー育成講座の受講生は一番若くて高校生だった。若い声や活動が盛んになれば地域のプラスになる。両講座受講生のフォローアップとして各講座の案内を出しており、参加する中で地域や団体のつながりを持っていただければ良い。その点をさらに力を入れたい。

【委員】

- ・市民活動サポートセンター自体を市民がどれだけ知っており、利用頻度はどうか。発信力のあるもの考えることも必要ではないか。
- ・まちづくり人財バンクは市がスキル・ノウハウを持った市民を集めるということだが、例えば、シルバー人材センターでは植木が得意な人などいる。地域ごとにそういった人がいる。

【副会長】

- ・まちづくり人財バンクはその人を信頼しなければならないという点で行政として慎重になってしまう。ただ、その人の人格などを考慮すると登録が進まない。市民が自主的にゆるやかにつながる点で大切で、気軽に頼めるような形が実用的だ。教育委員会は「教える」という視点があるため、生涯学習リーダーバンクとは別に考えた方が良くことを提案する。市民に一斉に登録を呼び掛け、年1回ほど更新作業をすれば良いのではないかと。人財の登録者に対して依頼の申し込みがないことについて、行政が責任を負う必要はない。

【委員】

- ・まちづくり人財バンクについて、その方法だと人はたくさん登録される一方で質にばらつきが生まれる懸念がある。登録者が集まる交流会を合わせて企画するなどの仕掛けも必要だ。登録制度を作っている民間の団体もあるが、頼む側も安心できる。2種類の考え方があり、どちらが良いか考えていく必要がある。
- ・サポートセンター通信は情報を届けたい人に届かなければ意味がない。関心の作るだけでなくどこに置くかを考えていく必要がある。

【会長】

- ・委員会で上がった意見を拾い上げ、具体的な改善策や方向性を出していただいた点は良い。

【委員】

- ・かねてから何度か話しているが、人や情報が集まるハード面の整備が必要だと考えている。

現在の場所が、くるりん広場のように機能しているかという点と難しい面がある。自分たちの楽しみで始めたボランティアが、地域課題の解決に向けて市民活動に形をかえて発展するなど、ボランティアと市民活動は親和性がある。市社会福祉協議会のボランティアセンターと市民活動サポートセンターを一元的にすることも一つの考え方だ。

(午前 11 時 30 分 終了)